



## 変化・多様性を柔軟に考える

2月1日、那須中央中学校で、PTA教養部主催の教育講演会が行われ、脳機能と発達障害について研究している自治医大とちぎ子ども医療センター准教授の門田行史氏が講師を務めました。

この講演には、全校生徒がリモートで参加し、また、YouTube限定で公開した動画を、100人以上の保護者が視聴しました。門田氏は「子どもの多様性を理解する」を題に、刺激を受け取り、思考したり、感情をコントロールしたりする脳の働きと、その刺激への反応が人によりさまざまであることを話しました。また、「漠然と普通の反応を考えてしまうが、発達障がいの子どもは、多様性が強いだけ。目まぐるしい変化がある日常で、色々な刺激に『大丈夫』と思えることが大切、そして、社会には、さまざまな人の反応を『理解する』『許せる』ことが求められていると思います」と話しました。

2年3組の大嶽昌城さんは「変化に柔軟に対応するため、ほかの人の意見を聞くことで自分の成長につなげたい」と振り返り、また、3年3組の田嶋宏丞さんは「変化する社会の中で、学校や寺など昔からあるものは、必要とする多くの人が意見を出し合い、助け合ってきたから今も存在しているのだと思います」と振り返りました。

## 仕事のことを知り進路選択に生かす

2月9日、那須中央中学校で、新型コロナウイルスの影響により中止したマイチャレンジ（職業体験）の代わりとして、立志式記念「職業セミナー」が実施され、2年生95人が、事業者のブースを回り、仕事についての話を聞きました。

那須町役場、みふじ幼稚園、高久組、ジョイア・ミア、しのぶや、那須ブライゼン、JAなすの、なかがわ水遊園、教員の9事業者の職員・社員らは、「各事業者の主な仕事内容」や「仕事の大変さ」とやがいが、「社会に役立つことの大切さ」、「あいさつやコミュニケーションの重要性」等を、経験をもとに生徒たちに伝えました。

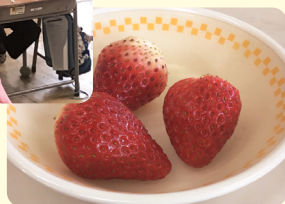


## おいしいいちご🍓ありがとう

JAなすのから町内の小中学校へ児童生徒と教職員1,650人分のいちご「とちおとめ」が贈呈されました。黒田原小学校では2月18日の給食で提供され、旬の真っ赤ないちごを前に、みんなで手を合わせて元気に「いただきます!」。生産者のみなさんに感謝しながらいただきました。3年の高久柚珠さんは「いちごは大好き。そのまま食べるのがおいしいです」と話してくれました。



3年1組のようす



## 鬼が怖くない!?



2月2日は節分。伊王野保育園では「鬼もお腹空いていないかな?一緒に遊べるかな?」と園児と話し合い、当日は、鬼にご馳走を振舞ったり、歌ったり踊ったり等、チョッピリ怖かったけどおもてなしをして鬼と仲良くなりました。